

令和元年度 ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人みえ大橋学園 ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、令和 2 年 2 月 6 日に「平成 30 年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和 2 年 2 月 6 日

学校法人 みえ大橋学園
ユマニテク調理製菓専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員（出席者）

○業界関係者

- ・奥村仁 （四日市地区調理師協会 会長）
- ・河内信次 （三重県調理師連合会 副会長）
- ・岡本伸治 （有限会社 夢菓子工房ことよ 代表取締役社長）
- ・後藤和真 （テクノマーケティング株式会社 呼月）総合調理学科卒業生

以上 4 名

2. 平成 30 年度 自己評価

項目	評価・課題・改善
(1) 教育理念・目標	評価：適切。 課題：教育理念は募集活動時に発信し、入学後も発信しているため学生、保護者は周知できている。これからも業界ニーズを気にかけて実施していく。 改善：特になし
(2) 学校運営	評価：ほぼ適切。 課題：前年度の総括も反映し、事業計画を作り、それに基づいた目標を設定し運営しているが、達成できていない点もある。 改善：教職員全員が事業計画をしっかり認識し、教員組織の役割に沿って確実に実施できるように計画する。
(3) 教育活動	評価：ほぼ適切。 課題：関連分野の企業、関連施設、団体との連携をさらに充実させながら教員の知識、技術を習得したほうがよい。 改善：教員の資質向上や能力開発のために研修を更に行っていく。
(4) 学修成果	評価：ほぼ適切。 課題：退学率が 0 % ではない。 卒業生の状況把握は一部に限られている。 改善：学生指導は細やかに行い、保護者とも連携し、退学者がでないように取り組む。資格取得率向上の対策を練る。(対策講座の見直し、国家試験他県受験等)
(5) 学生支援	評価：ほぼ適切。 課題：担任、教科担当教員、学科全体による様々な支援を実施しているが、学生の多様化により、一部できていない点もある。 改善：保護者との連携を強化する。①入学時に学生便覧を配布し、学校のエ教育方針等を理解してもらう。②入学時に既往症、持病を確認する。③個人によっては些細な点でも状況報告し、現状を共有し、連携してサポートする。また、全教員で全学生を意識して接し、共通の学生指導ができるようにする。
(6) 教育環境	評価：ほぼ適切。 課題：防災対策等は教職員の共通認識に欠ける点がある。 改善：火の元、戸締まりの確認を徹底して行う。教職員間の報告、連絡、相談を確実に言い、情報を共有する。
(7) 学生の受入れ 募集	評価：適切。 課題：懸命の募集活動にも関わらず、少子化、希望者減少により定員数確保が難しい状況である。 改善：広報活動を見直して募集活動に取り組む。

(8) 財務	評価：適切。 課題：特になし。 改善：特になし。
(9) 法令等の遵守	評価：適切。 課題：特になし。 改善：特になし。
(10) 社会貢献・地域貢献	評価：ほぼ適切。 課題：地域から要望があれば社会貢献や地域貢献は行うが、授業・行事の年間計画を教員の調整が必要なため、全ての要望に応えることは難しい。 改善：学校行事等で地域発信を積極的に行い、学生と関わる機会を作る。

3. 令和元年度 学校関係者評価（平成 30 年度の自己評価についての評価）

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	ほぼ適切である。 様々な教員研修を通して教員の指導力を を上げることがを継続する。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握している か」	ほぼ適切である。 SNS 等により学校情報を発信し、卒業 生来校時に現状を把握する。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。 学生の多様化により個別指導を継続す る。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整 備されているか」	適切である。 施設・設備の点検を定期的に行い、改善 できる点は即対応することを継続す る。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。 学生募集活動を通し、業界の活性に寄 与する。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされ ているか」	適切である。 法令等遵守は継続して実施する。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を 行っているか」	ほぼ適切である。 さまざまな行事等を通し、社会貢献・地 域貢献を継続する。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体 的な評価・意見等	全体的な評価は「ほぼ適切」だが、今後、課題を解決し、改善に努 めていただきたい。また業界のニーズに対応する人材育成に向けて、 教育課程編成委員会で議論し、学校教育に反映していただきたい。